

第76回秋季東北地区高等学校野球宮城県大会

□大会第6日目 9月20日(水)

準々決勝	石巻市民球場	2時間 22分		打安点盗犠四三残失併
東 陵	0 0 0 2 0 0	0 0 0	2	【東】 35 9 2 0 1 4 9 11 1 0
仙 台 育 英	0 0 0 0 0 1	0 0 0	1	【仙】 33 8 1 0 1 2 2 8 1 0
(球) 毛利 晃 (一) 石川 英孝 (二) 鶴田 代志昭 (三) 菅井 和紀				▽本塁打 なし
【東】 熊谷 一 三宅 一				▽三塁打 なし
【仙】 山口, 佐々木広, 武藤 一 細田 一				▽二塁打 なし (東)
▽暴投 なし		▽捕逸 なし		なし (仙)

【評】

両校の投手陣が要所を抑え、引き締まった試合展開であった。特に東陵の熊谷は、3回まで出塁を許さず、試合のリズムを作った。4回、東陵はこの回先頭の齋藤が中前打で出塁し、犠打で2進。7番沼田の左前打で生還し先制。救援の佐々木から8番飯塚が右前打でチャンスを広げ、9番熊谷の遊ゴロで2点目を挙げた。その後もコンパクトな打撃でチャンスを作るも、育英投手陣に要所を抑えられ追加点は阻まれた。

一方の仙台育英は、4回以降は7回の3者凡退を除き毎回安打を放ったものの、得点は6回二死2塁から5番鈴木の前打のみであった。8回は2死2塁から4番湯浅が右前打を放ったが、右翼高野の好返球で2塁からの走者が本塁で刺され、同点機を逃した。9回も1死から細田・高田の連打でチャンスを作ったが後続を断たれた。

圧巻だったのは東陵の左腕熊谷の投球であった。散發8安打・2四死球・失点1で投球数115の粘り強い投球で完投し、勝利に大きく貢献した。

準々決勝	石巻市民球場	1時間 52分		打安点盗犠四三残失併
聖 和 学 園	2 0 0 2 1 1	0 0 0	6	【聖】 29 6 3 3 4 7 7 7 2 1
仙 台 城 南	0 0 0 0 0 0	0 0 0	0	【仙】 31 4 0 0 1 1 10 6 2 0
(球) 沼辺 力也 (一) 菅原 久 (二) 菅井 和紀 (三) 鶴田 代志昭				▽本塁打 なし
【聖】 千葉 一 碓井 一				▽三塁打 鈴木(聖)
【仙】 小塚, 笠松隆 一 阿部 一				▽二塁打 千葉, 遠藤, 三浦 (聖)
▽暴投 なし		▽捕逸 なし		なし (仙)

【評】

初回に先制した聖和学園が終始試合を優位に進めることとなった。

初回、1番三浦の2塁打で好機を作り、犠打野選、挟殺プレーの間に先制した。4番碓井の犠飛で2点目を取ると、4回には連続四死球に相手の失策もあって2点を追加。5回、6回にも長打で効果的に追加点を重ね、試合の大勢が決した。

一方の仙台城南は、積極的な打撃が目立った。聖和学園先発千葉の角度のある速球に対し、3回は1番柿崎、4回には3番佐藤が出塁し好機を作るが、打線が続かず得点には至らなかった。聖和学園千葉は散發4安打10奪3振。投球数102球の安定した投球で試合を縮めた。

準々決勝	仙台市民球場	2時間 22分		打安点盗犠四三残失併
古 川 学 園	2 0 3 0 0 0	1 0 0	6	【古】 33 9 6 4 1 6 3 7 1 0
仙 台 商 業	3 1 0 0 1 0	0 0 0	5	【仙】 28 6 5 2 6 4 5 6 0 1
(球) 山館 浩樹 (一) 平岡 勲 (二) 野田 学 (三) 千葉 祐介				▽本塁打 なし
【古】 秋山, 木谷, 佐藤遥, 櫻井 一 高島 一				▽三塁打 関谷(古), 熊坂2(仙)
【仙】 大友, 作田, 井口 一 佐藤志 一				▽二塁打 加藤 (古)
▽暴投 なし		▽捕逸 なし		郷家 (仙)

【評】

古川学園は1回先頭の山石が四球で出塁すると、続く開屋が犠打で山石を送り、3番渡邊のレフト前ヒットで先制し、5番加藤のライト前ヒットも出て2点を先制した。1回裏仙台商業は先頭の佐藤志太が内野安打で出塁し、続く2番古川が犠打エラーで出塁すると、3番熊坂がライト線へ3塁打を打ち、すぐさま同点に追いついた。その後5番佐々木の犠打で3点目をもぎ取り、逆転した。2回裏にも2本のヒットと2犠打で4対2とした。しかし、3回表に古川学園は、この回先頭の9番打者木谷が死球で出塁し、2番開屋がレフト線3塁打、3番渡邊が2打席連続のレフト前タイムリーなど3本の長打で3点をとり、逆転した。仙台商業も5回裏に3番熊坂が2本目のライトオーバー3塁打で出塁し、4番郷家は故意四球で出塁し、1死1・3塁の場面で5番佐々木がまたも犠打で同点とした。7回表古川学園はこの回先頭の高島がライト前ヒットで出塁すると、1番山石、2番開屋もヒットで満塁としたところで仙台商業は投手井口に交代したのだが、3番渡邊に押し出し四球を許し、この得点が決勝点となった。

犠打をからめ、粘り強く戦った仙台商業だったが、チャンスにあと1本が遠かった。接戦をものにした古川学園が準決勝に進出した。

準々決勝	仙台市民球場	1時間 51分		打安点盗犠四三残失併
仙 台 第 三	0 0 0 0 0 0	0 0 0	0	【三】 27 2 0 1 0 2 2 2 2 0
仙 台 第 一	0 0 0 0 1 0	1 0 X	2	【一】 25 6 2 0 2 1 6 2 1 1
(球) 新野 祥平 (一) 小松 宗夫 (二) 佐々木 諒太 (三) 邊見 豪志				▽本塁打 なし
【三】 遠野, 石川 一 熊 一				▽三塁打 なし
【一】 安藤 一 小川 一				▽二塁打 佐藤讚 (三)
▽暴投 なし		▽捕逸 なし		なし (一)

【評】

県内屈指の進学校対決は、息詰まる投手戦の結果、仙台一高が2対0で仙台三高を下した。

試合序盤、仙台一高先発安藤のコースをつく丁寧なピッチングの前に仙台三高打線は凡打の山を築く。一方公式戦初先発の仙台三高遠野を捕手熊が上手くリードし、ランナーを出しながら粘り強いピッチングで4回まで0点で抑える。

試合の均衡が破れたのは5回裏。仙台一高5番遠藤が1アウトからセンター前ヒットで出塁すると、6番水上の犠打で2アウト2塁。7番菅井がしぶとくセンター前に落とし、先制点をあげた。7回には、6回からマウンドに上がった仙台三高エース石川に対して、3番高橋がノーアウトからライト前ヒットで出塁し、4番小川がヒットエンドランでレフト前ヒットを打ちノーアウト2塁、3塁を作ると、5番遠藤の中犠飛で貴重な追加点をあげた。

仙台三高打線は、8回に先頭5番佐藤がライト線のツーベースヒットでノーアウト2塁のチャンスを作るも後続が倒れ、得点を奪えなかった。

終わってみれば、仙台一高安藤が散發2安打、2四球で公式戦初完封勝利をあげ、準決勝進出を決めた。